



私は催眠されてるから...

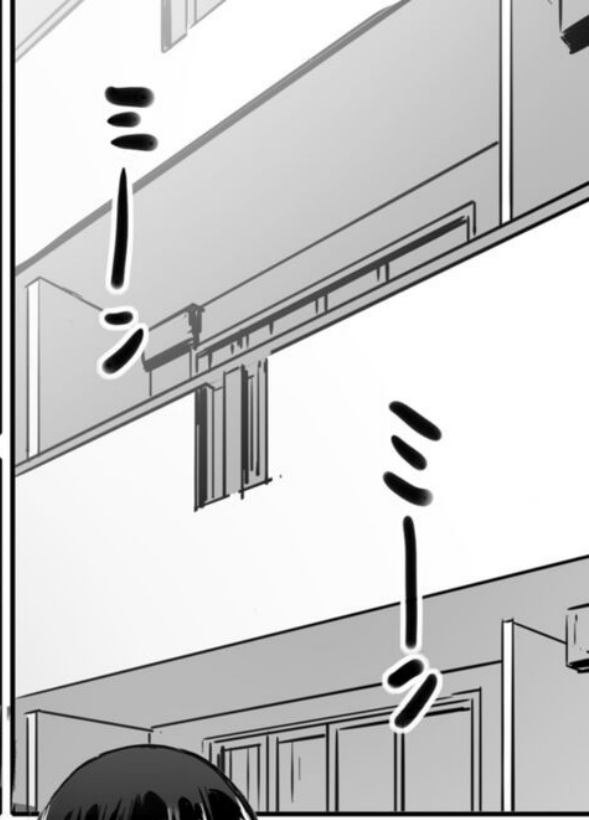


カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ



ミーン

ミーン

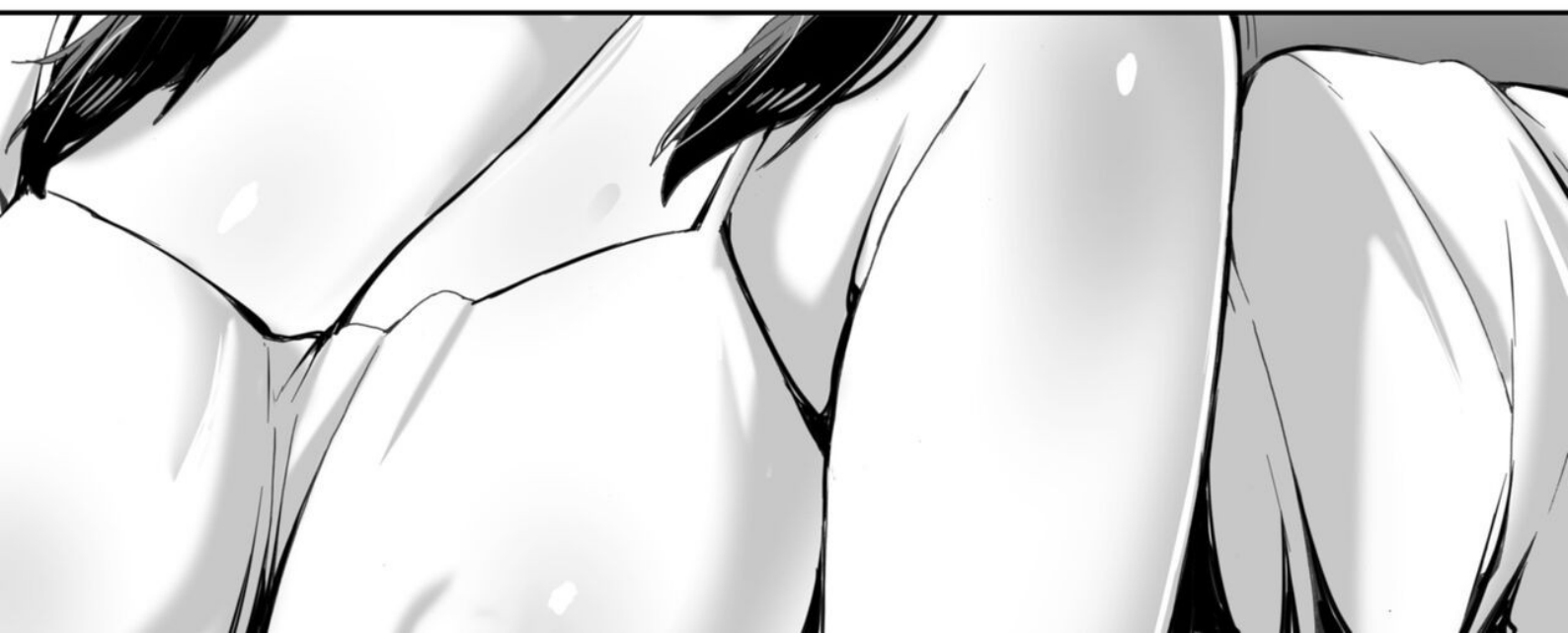


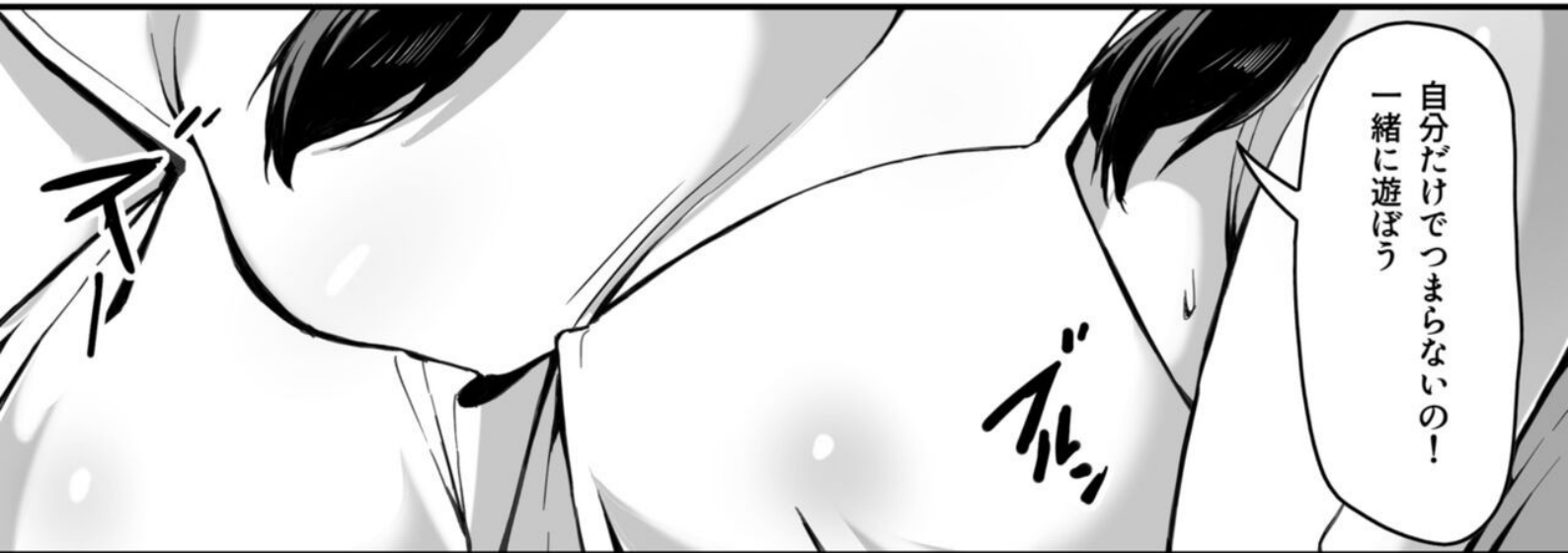
ねえねえ〜翔太〜

もう宿題をやめて
一緒に遊ぼうよ

カチカチ

カチカチ



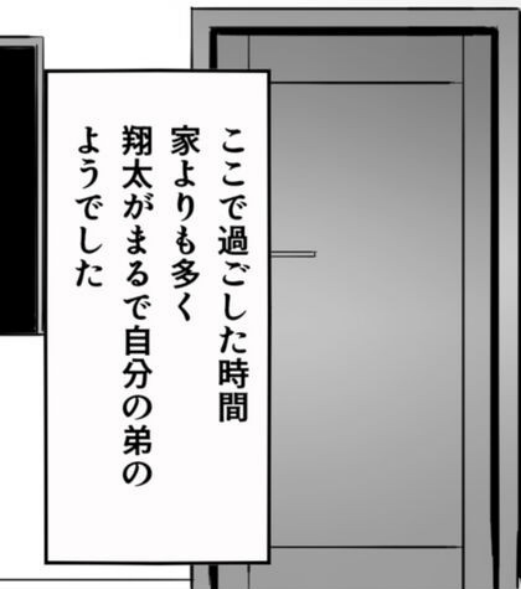




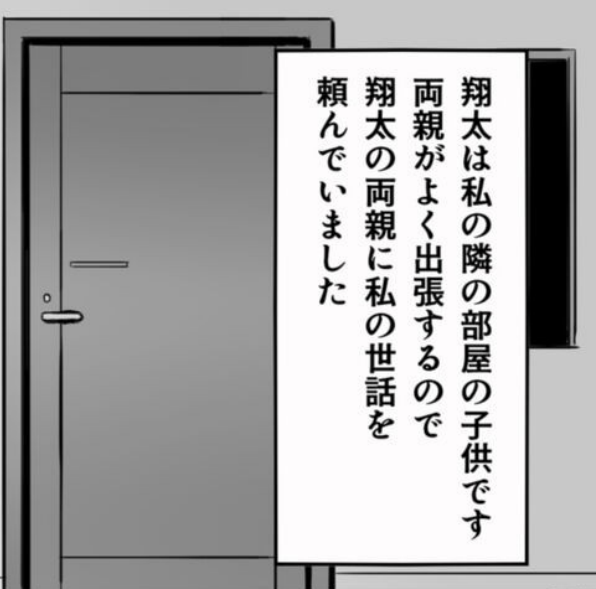
反抗期かな



ああもう
どうしてこんなに
可愛くなくなっちゃったの



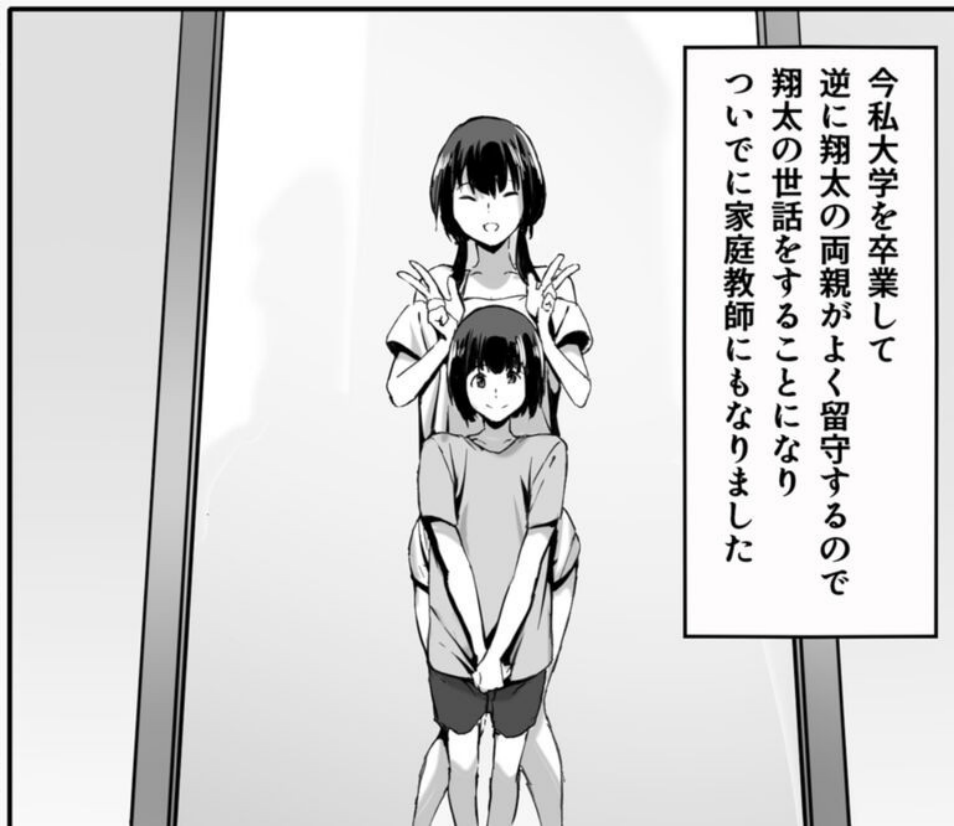
ここで過ごした時間
家よりも多く
翔太がまるで自分の弟の
ようでした



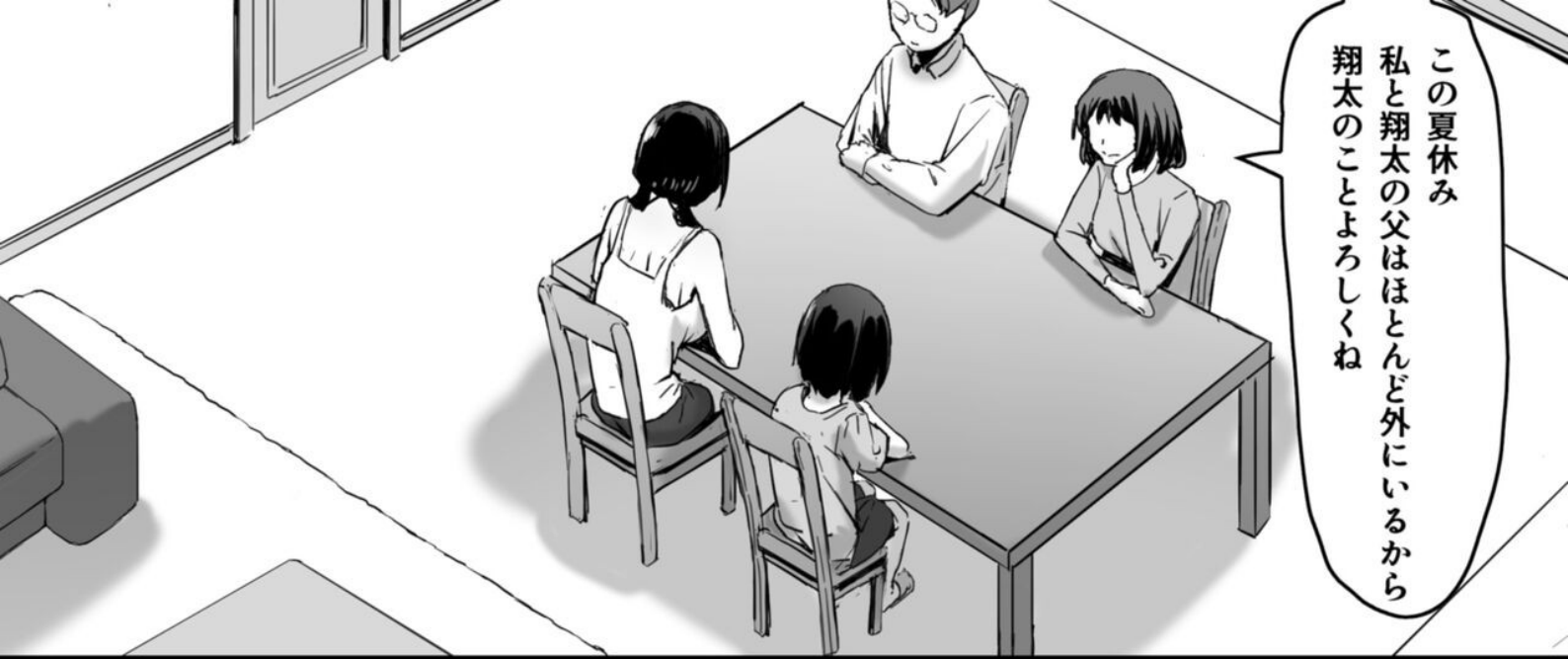
翔太は私の隣の部屋の子供です
両親がよく出張するので
翔太の両親に私の世話を
頼んでいました



気がつけば
あの翔太も大きくなったな〜ふふ



今私大学を卒業して
逆に翔太の両親がよく留守するので
翔太の世話をすることになり
ついでに家庭教師にもなりました





三人ともわたし
一人をいじめ
なんて…酷いよ

YOU DIE



昔はそんなに活発だったのに
いつの間にこんなのに
なっちゃったのかな

ん…でもこの子もその
年齢だし…



翔太くん…?

何か悩みがあったら
思い切って姉さんに
言ってね



もう好きな人がいるんでしょ
その年だし



何のこと？

大丈夫だよ〜
姉さんちゃんと分かってるから



何を言ってるんですか！

うんうん〜
わかってる
わかってる？



お〜当たったみたい



両親がいない貴重な
夏休みで
せっかく二人のみな
世界なのに私に
邪魔されちゃったよね〜

ん



この反応だ〜
可愛い〜

なるほどなるほど〜
そんな時は姉さんが
手伝うよ〜



違ってば！

でも翔太の性格だとう
やって
告白するかすら分からない
わね〜



今度こそ逃がさないよ

ハイ



また僕をいじめて



うーん…

言っでごらん…
好きな人ができたん
でしょう



彼女が…絶対に自分のことを真剣に見てこない…
自分を好きになるなんてあり得ない



でも…
絶対無理だよ…

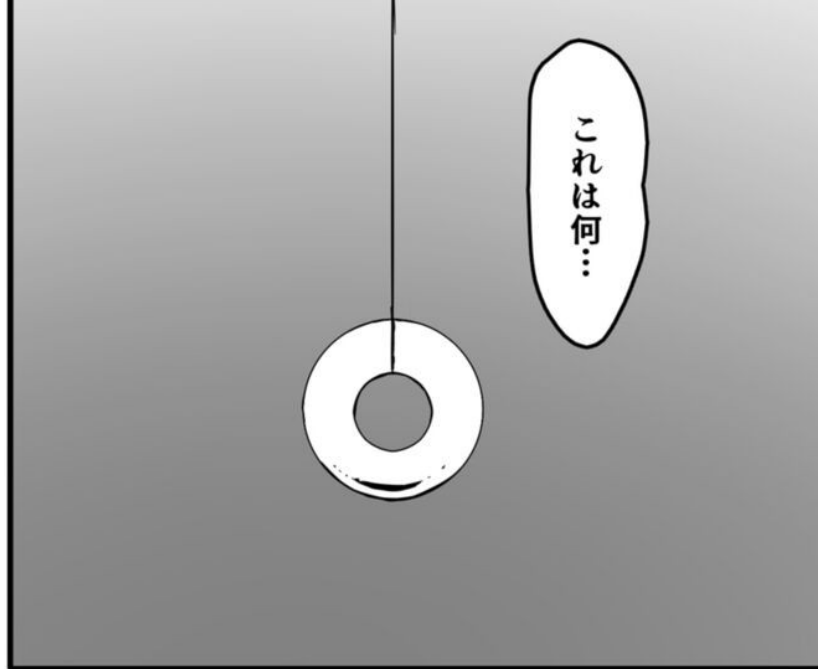


ふふふ





春菜姉…僕
真面目な話を
してゐるんだけど



これは何…



これはすごい宝物よ…
本当に相手を好きなら
相手をあなたの意志に
従わせることができるのよ

はあ…
そんなこと
ありえないよ



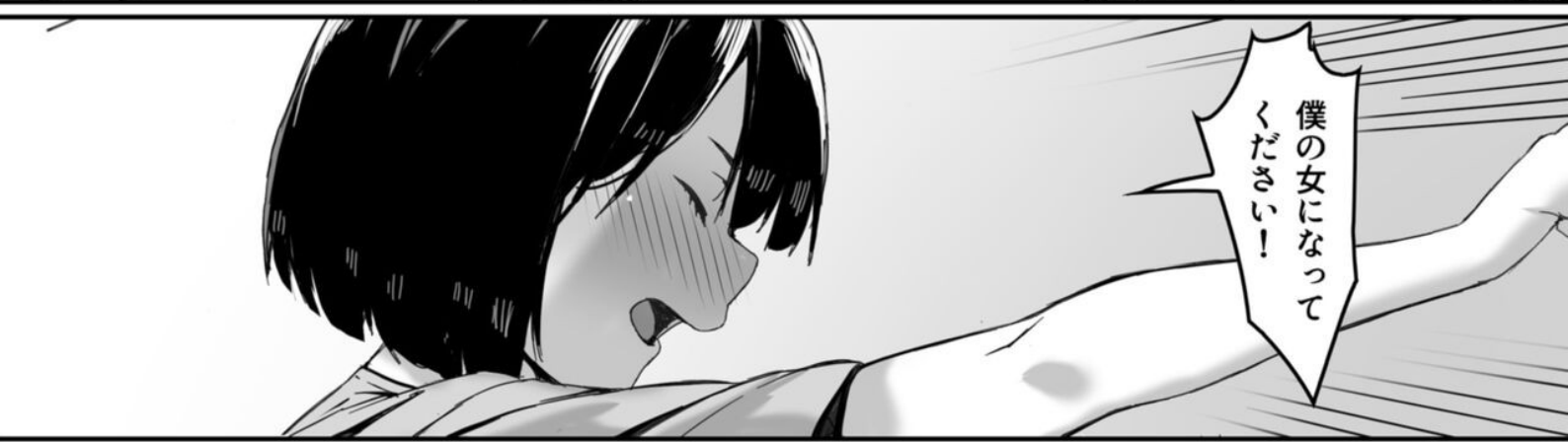
おおおこの表情…!
決心するだみたい!
面白いことになりそうだ…



本当だよ…あら…
それは素敵な恋愛に
なるわよ(ウソ)



…姉さん…の…





翔太くん…まさか…私に

ドキ

けど…困った
どうしよう



そんなに真剣に
勇気を出して…
もし私が冗談だと
言ったら



私の姉としての
威厳が…

ドキ



分かった

ドキ



結局…子供だ…家族ごっこを
して遊んであげればいいだろう
それで…どう終わらせるか
考えてみよ…
「魔法は二時までだよ」とか…

よかった！
信じてよかった！

…本当に効いてる！

見せて…胸を！

いきなりそこから！？

トロキ……



でも…やっぱり男の子だからね…

断られないわ



だめだめ！
これはちよっと…

でも…翔太くん…
その期待の顔…
前のように…



分かったわ

どろどろ

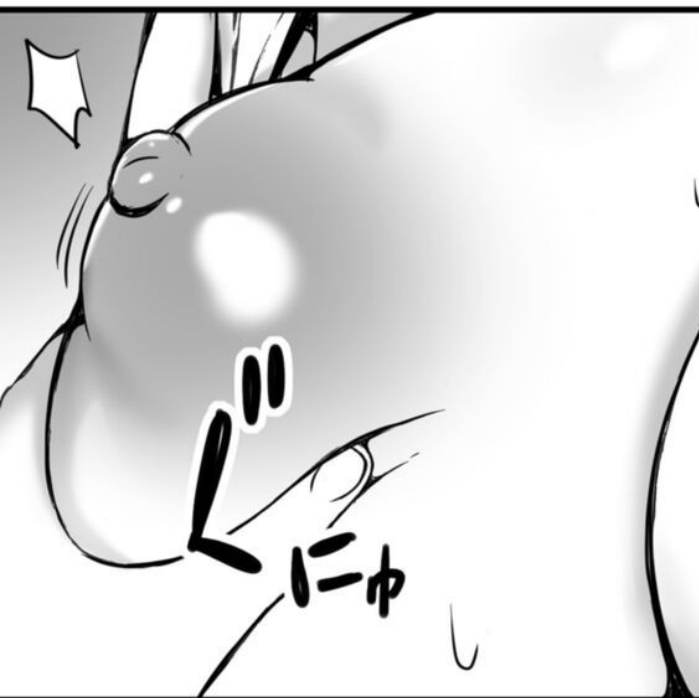


好奇心はきつとあるよね…
翔太くんなら…少しだけ…

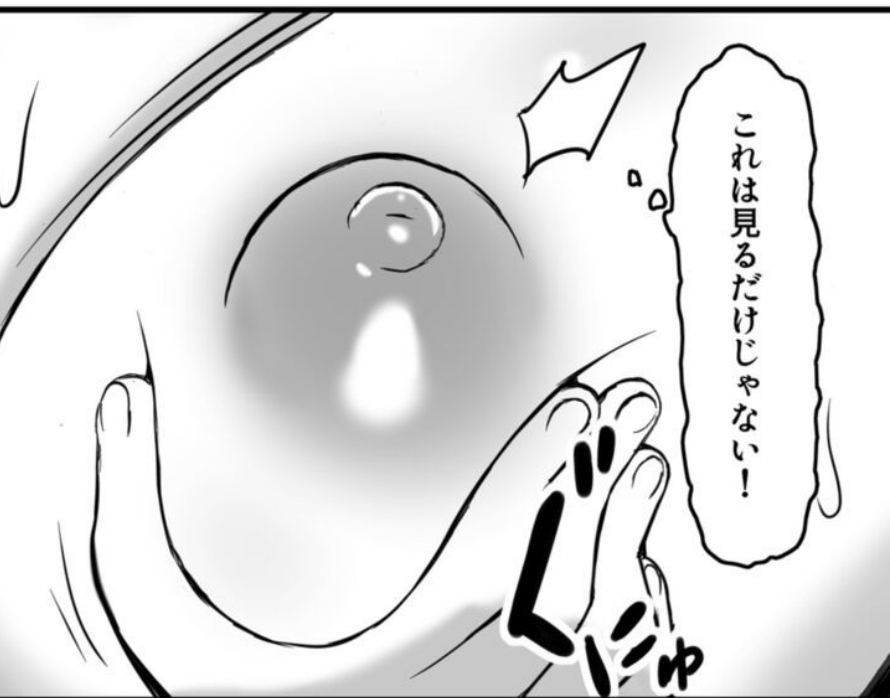


ちよっと見せてあげるだけでいいだろう

おっ



おっ
にゅ



これは見るだけじゃない!

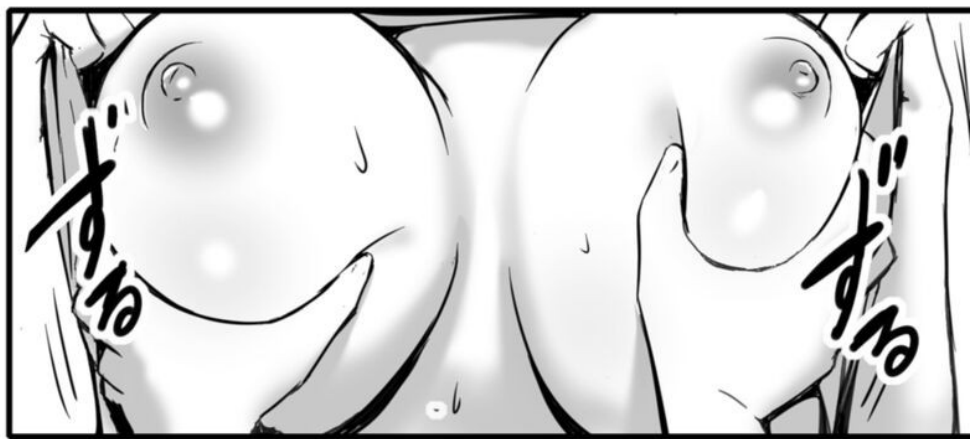
おっ
にゅ



もう十分なんじゃない...
これ以上続けたら
大変なことになる...

おっ

おっ
にゅ



おっ
ずる

おっ
ずる



おっ
にゅ

おっ
にゅ





これは…やばい…
色々な意味で…!

あゆほ

あゆほ



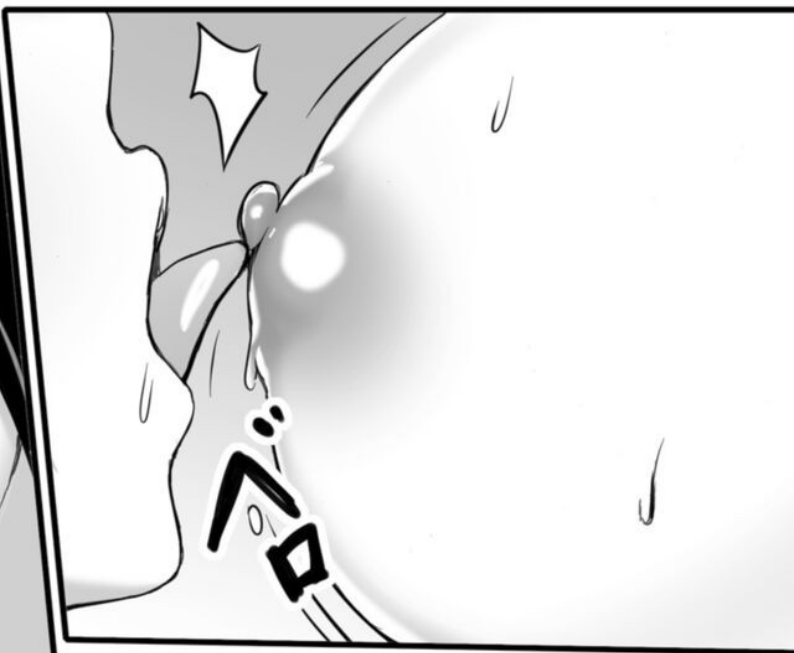
あゆほ

しゅ



これ以上だと…私が…

あゆほ



あゆほ



あゆほ

これ以上だと



行っちゃーうー!!



まさか子供にただ乳首を
弄られただけで絶頂に
達するなんて



これからすぐ起きて
催眠が終わったふりをしよう

満足したみたいだね…

やっと…終わった



次には…



下を見せて



だめだめ！
これだともう戻れない！

はー

はー



こんなに期待してる顔…
そして続けると…
さきのように



しかし…



ちよっと待ってて



分かったわ





は...
ドキドキ

超恥ずかしい!

は...
く



ああ...頭が完全におかしくなってる



でも...とにかくくしばらく翔太を喜ばせておくべきかな

ドキ...



どうですか…



自分でやるときとは
完全に違う感覚ですね…

このまま続けるのも悪くない
かもしれないね…



そこは…

あぁ…





僕の…一生に僕の女に
なってほしい！

この様子で告白されるの
はちょっと…でも…

ドキ

グイ



よかった！



ああ…この様子が…

断られるかよ…

ドキ



わかった
今から私はあなたの女だよ

ドキ



それでは…やろう

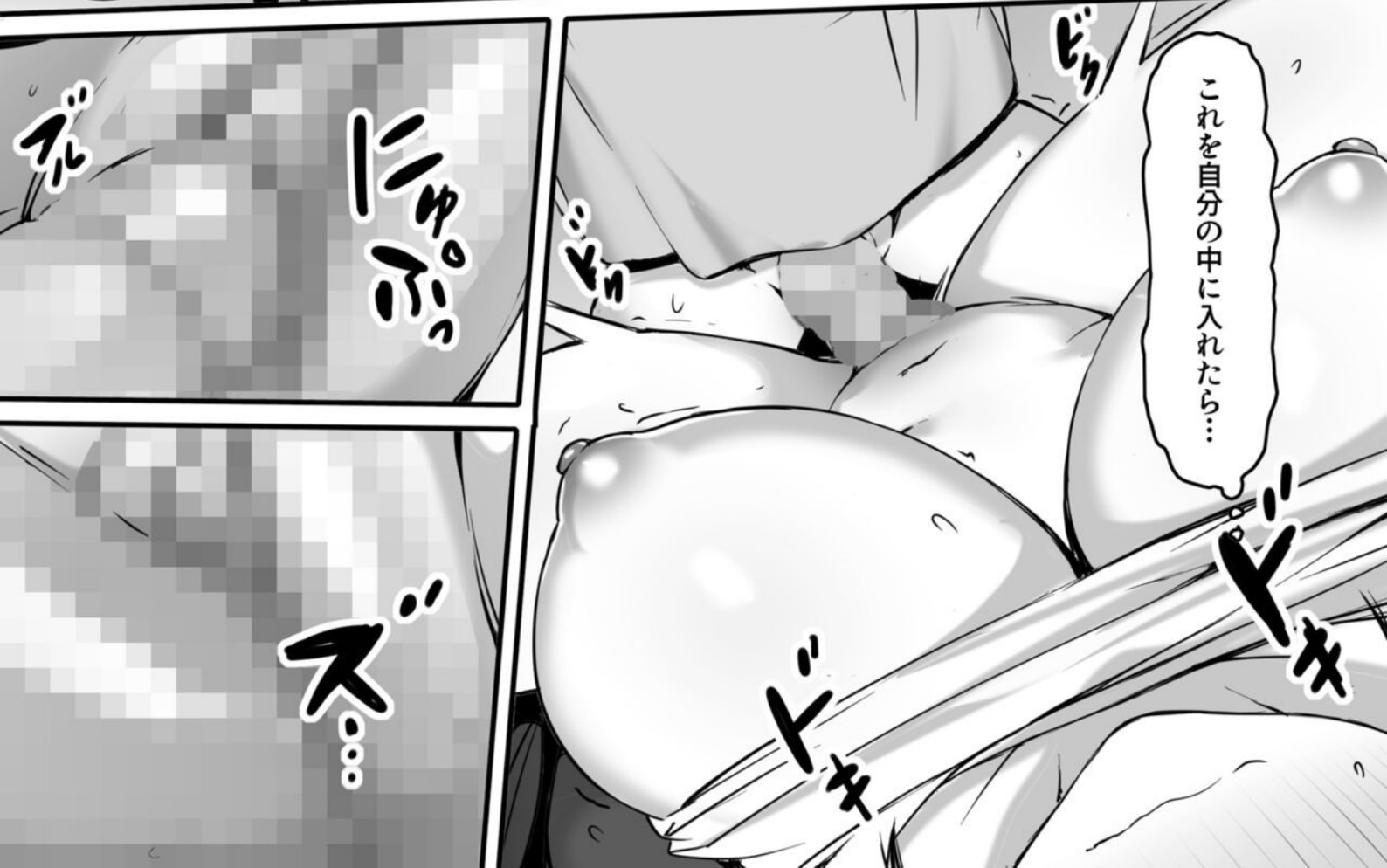
ドキ



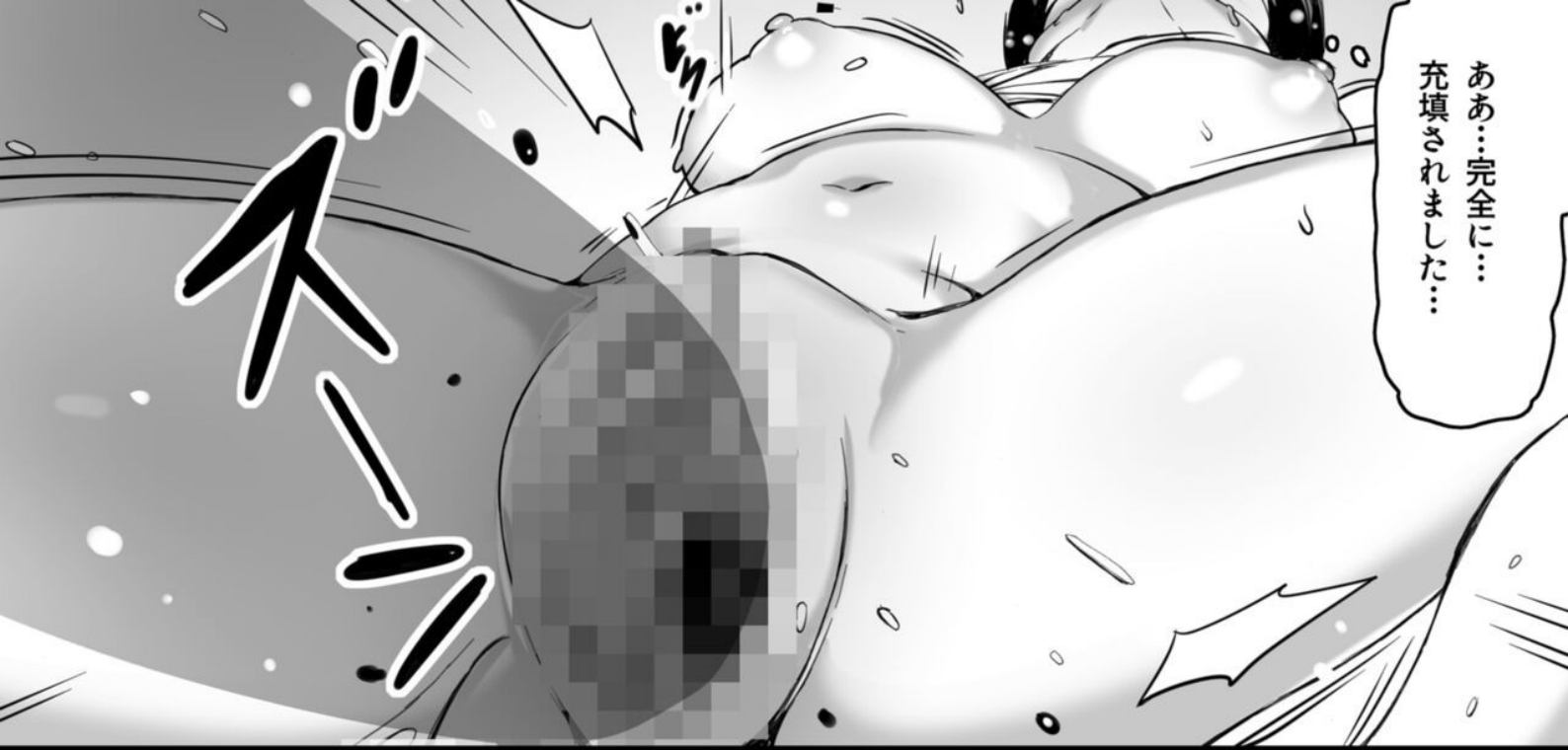
これ…ウソ…
全然…子供が持つべきな
サイズ…ではない…



一緒にお風呂に入ったばかり…
絶対同じもの…ではない…



これを自分の中に入れたら…



ああ…完全に…
充填されました…



すごい…
これは…本当の…



血!?!…春菜姉は…
僕は…



はっ

ズン

はっ

春菜姉さんが私のものだ!
絶対に他の人に渡さない!

はー

ああ...

翔太がこんな風に
思ってるなんて...

それに...すじら...

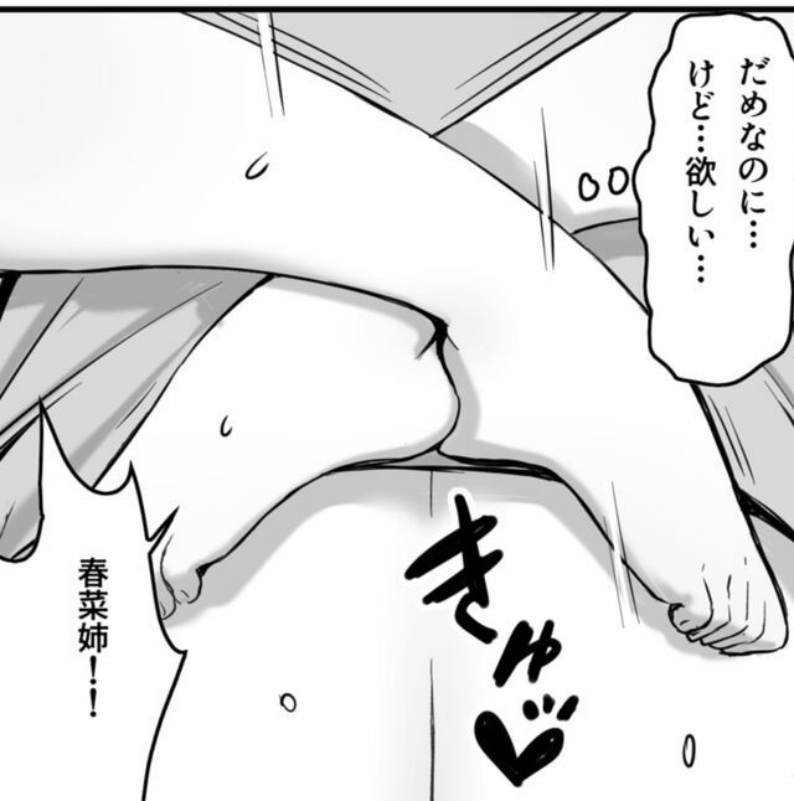
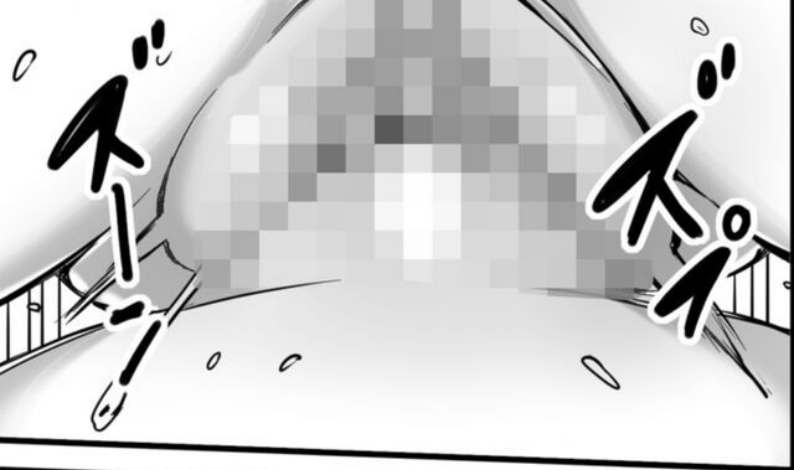
最も奥まで...続けて...

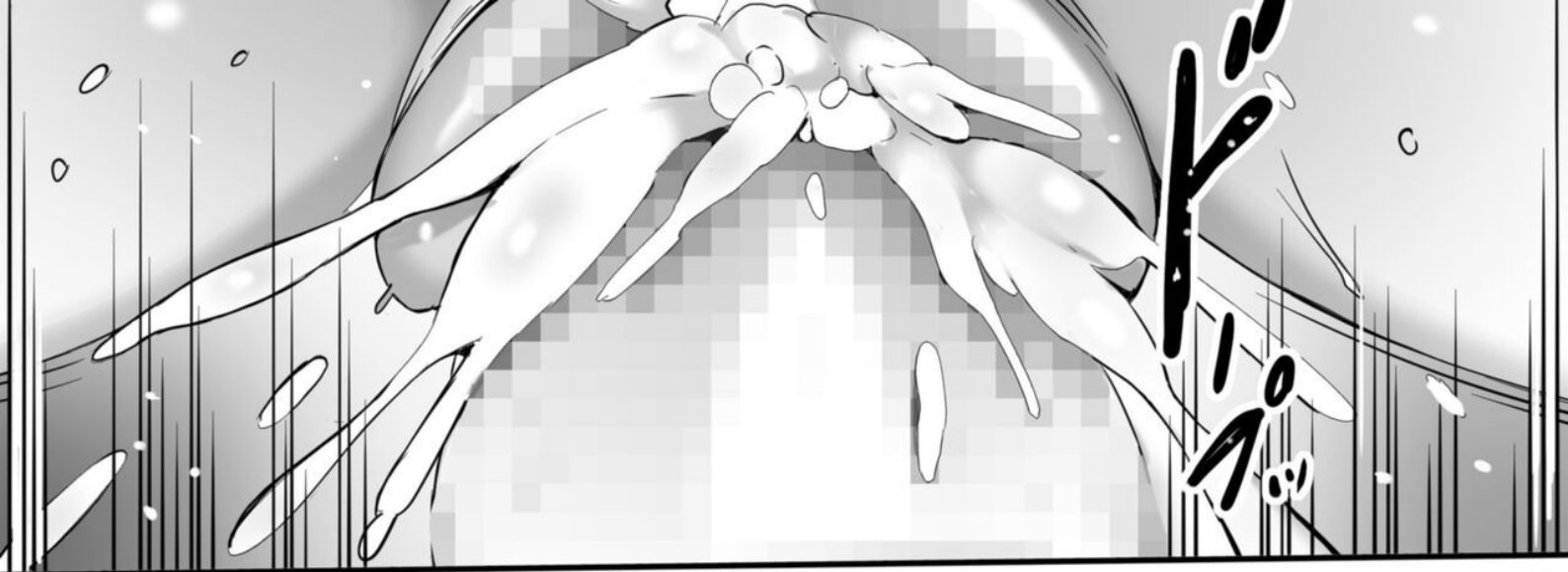
もし翔太をより喜ばせれば...

はい...私は翔太のものです...

はっ

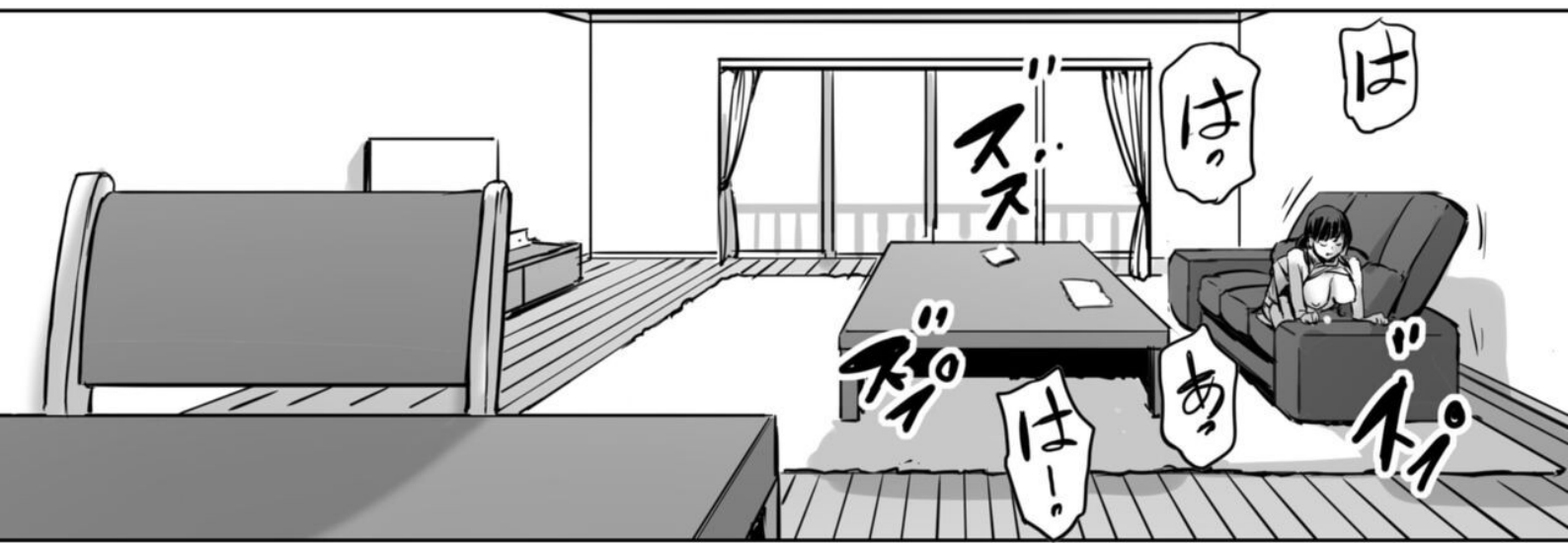
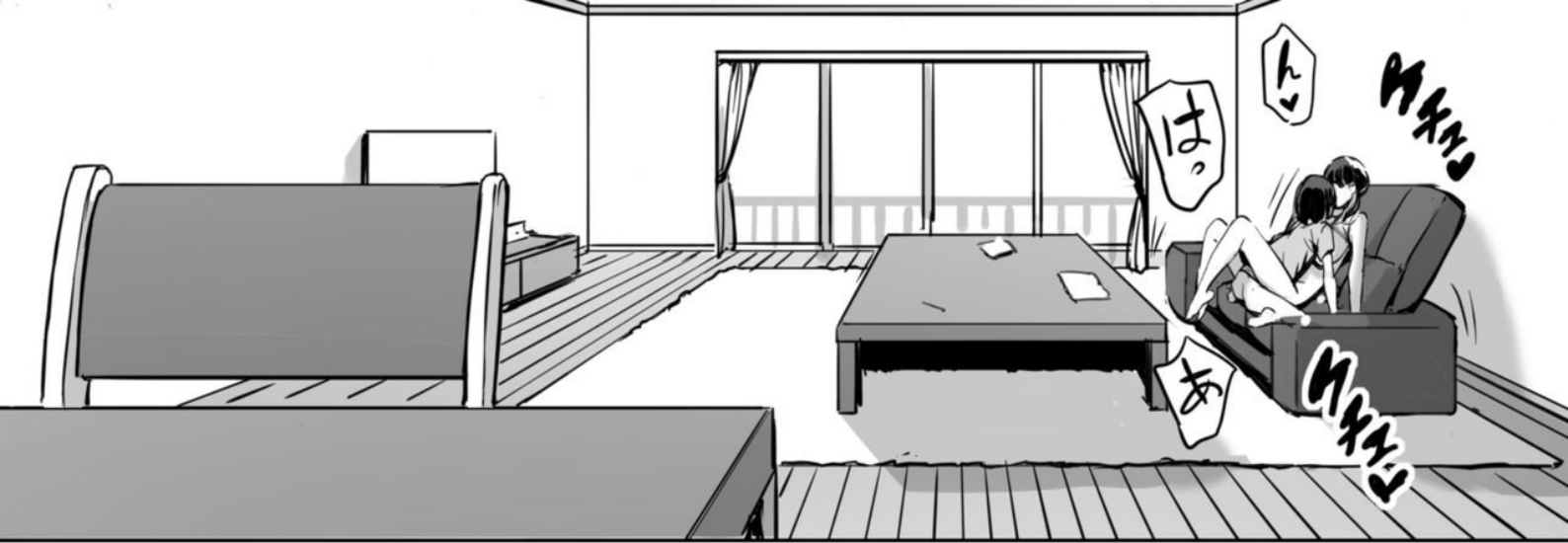
はー

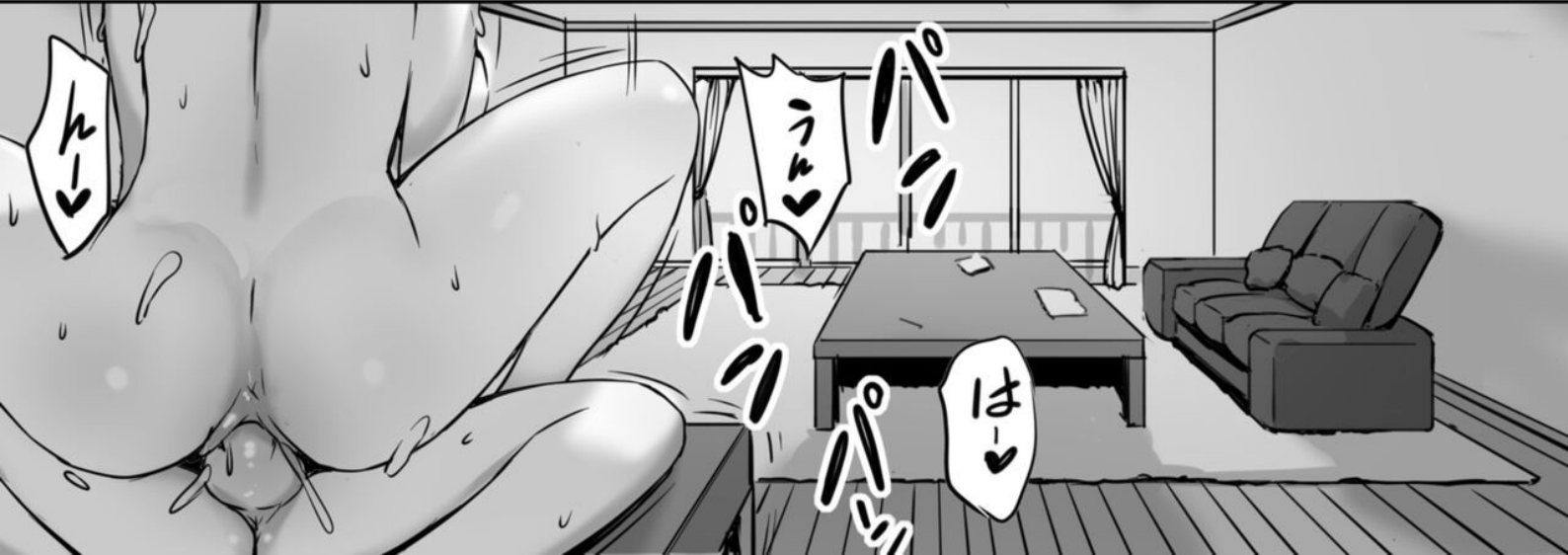
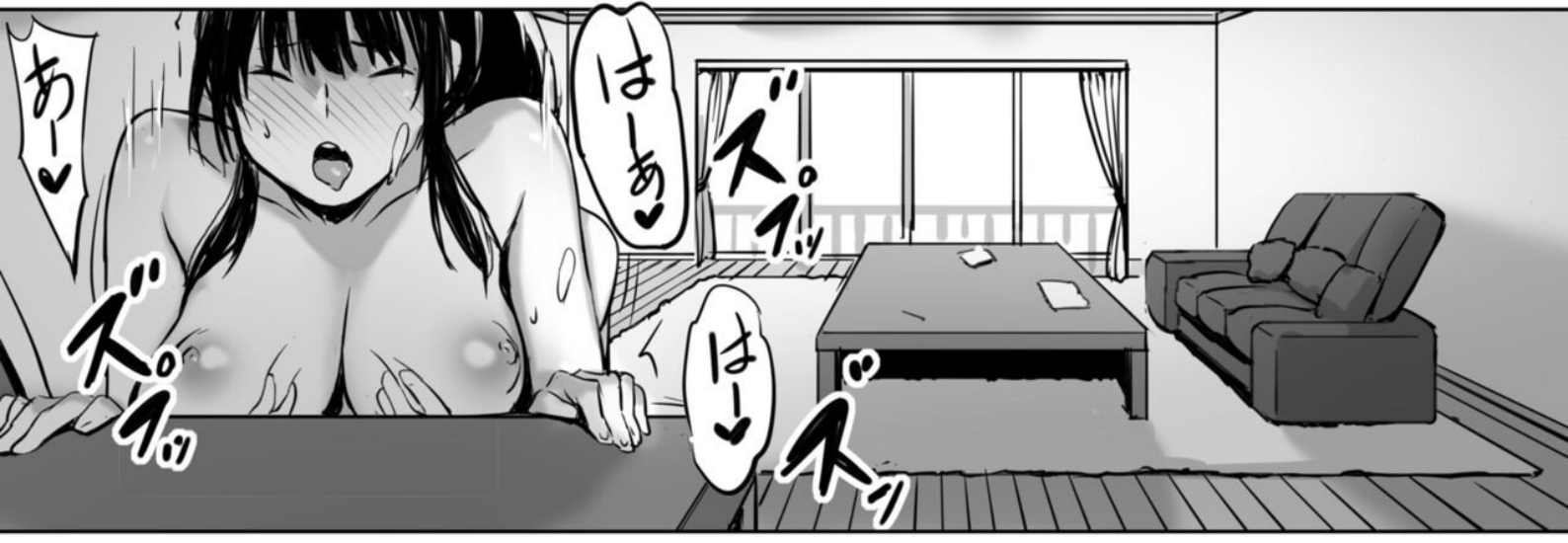








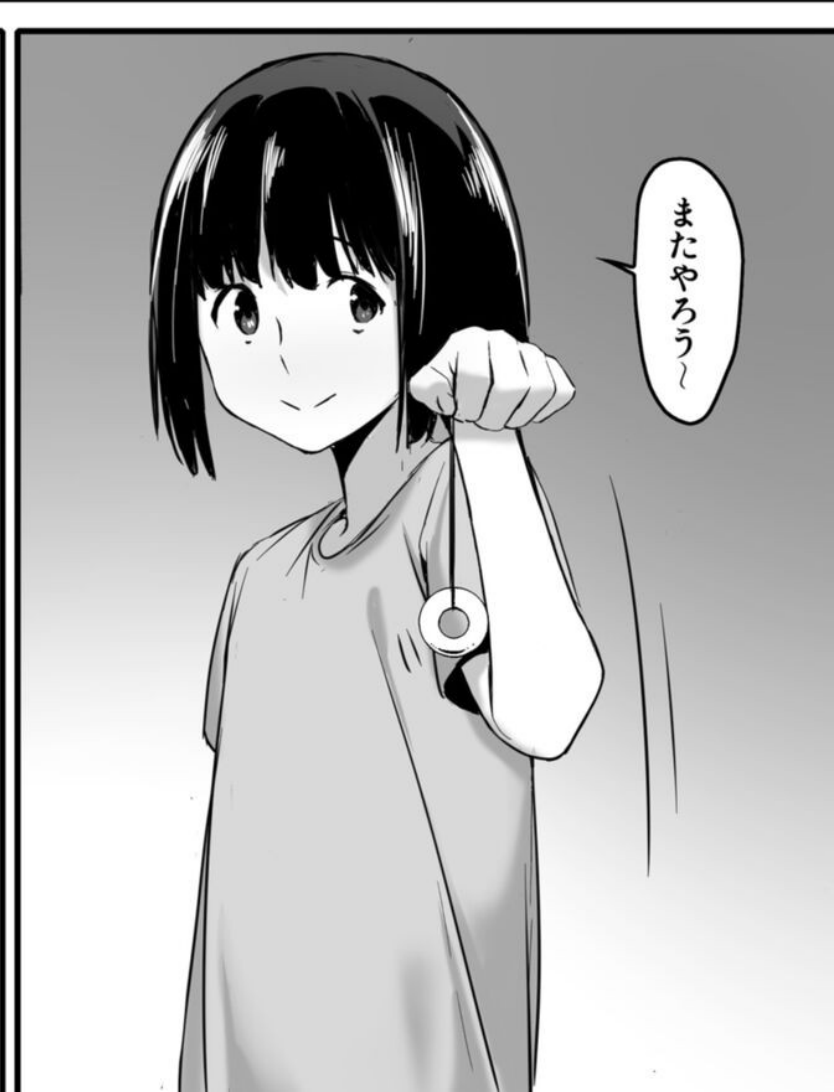
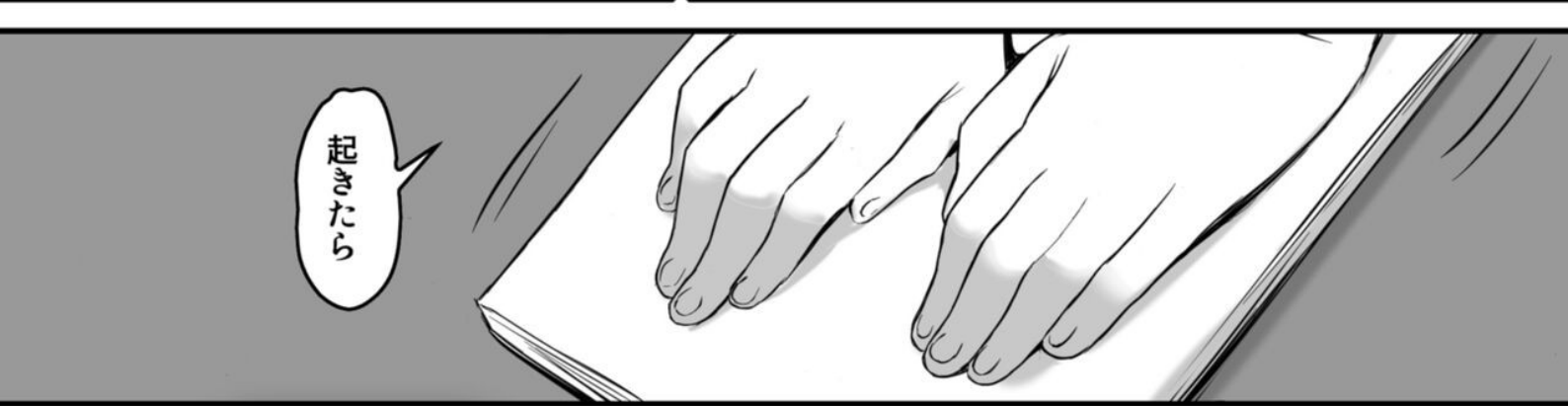








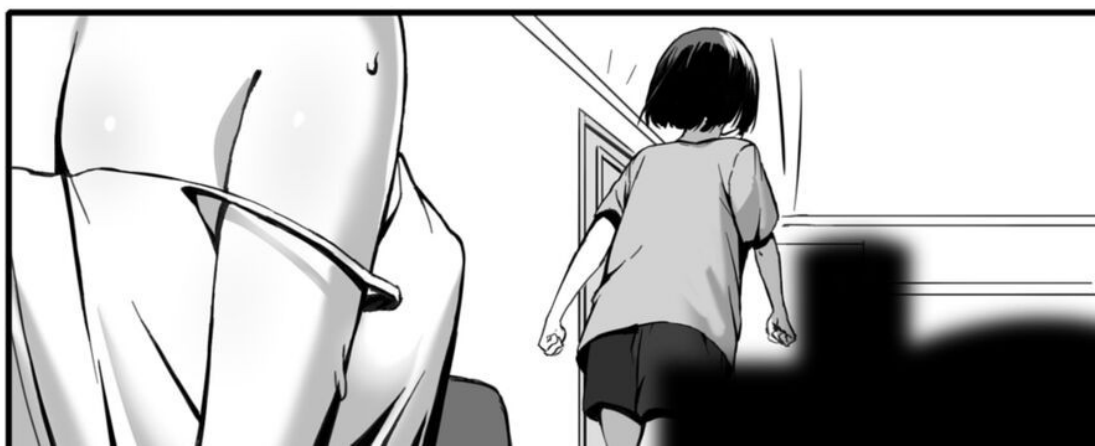
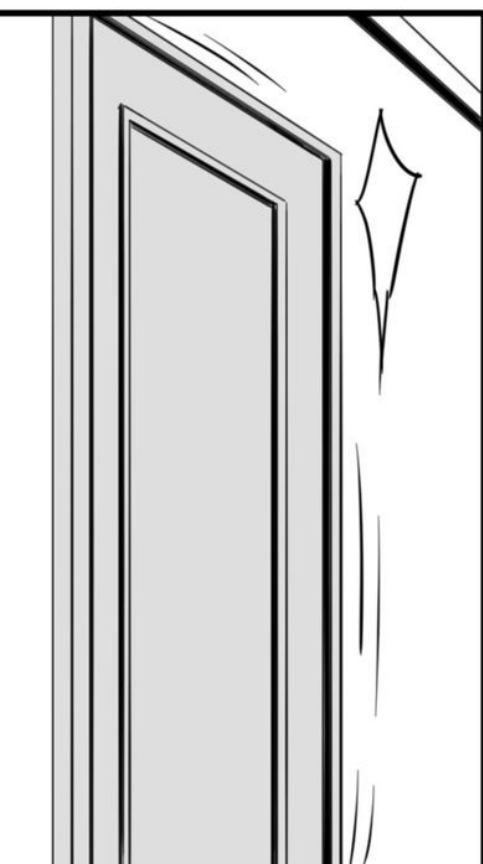


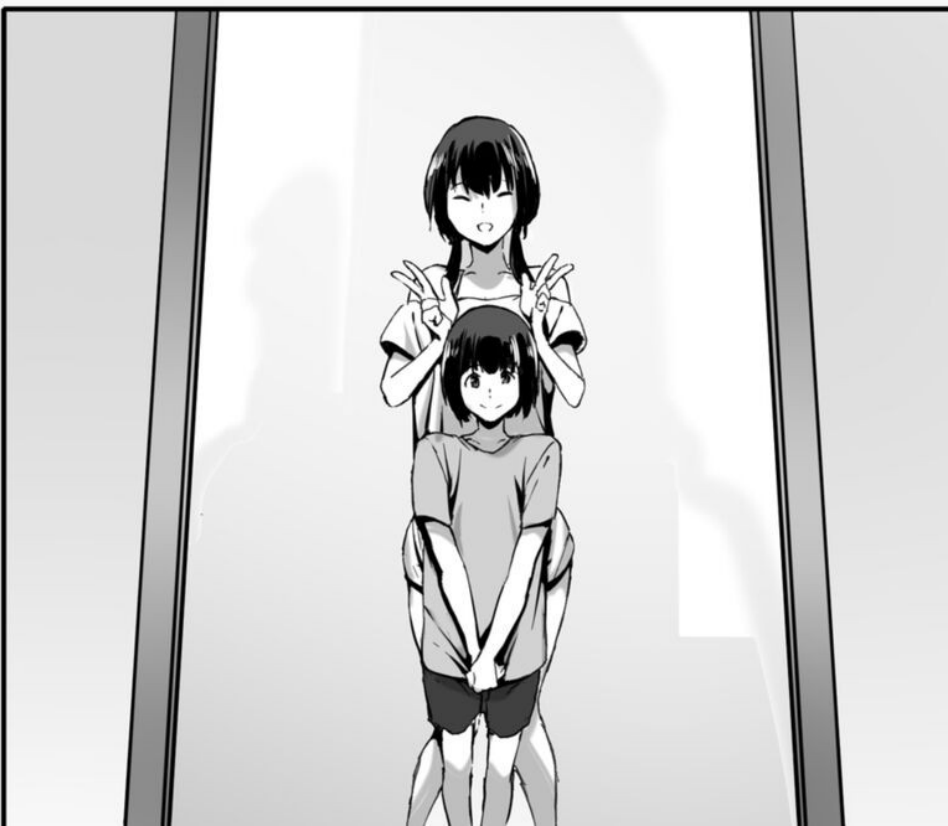


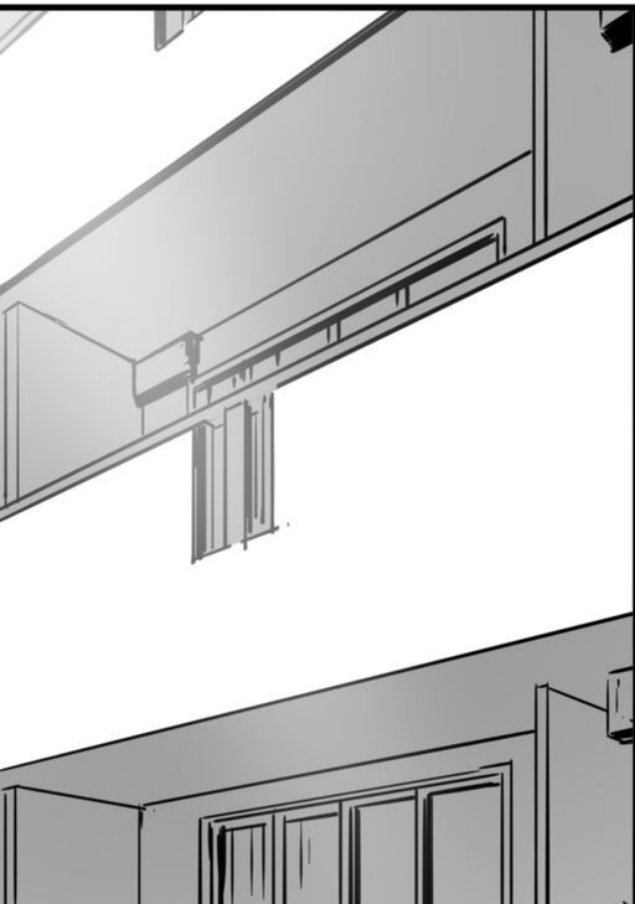
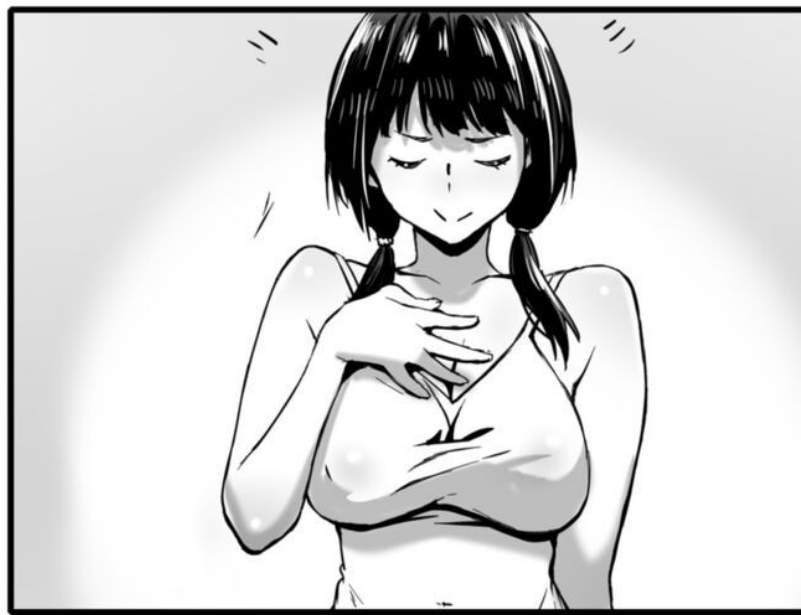
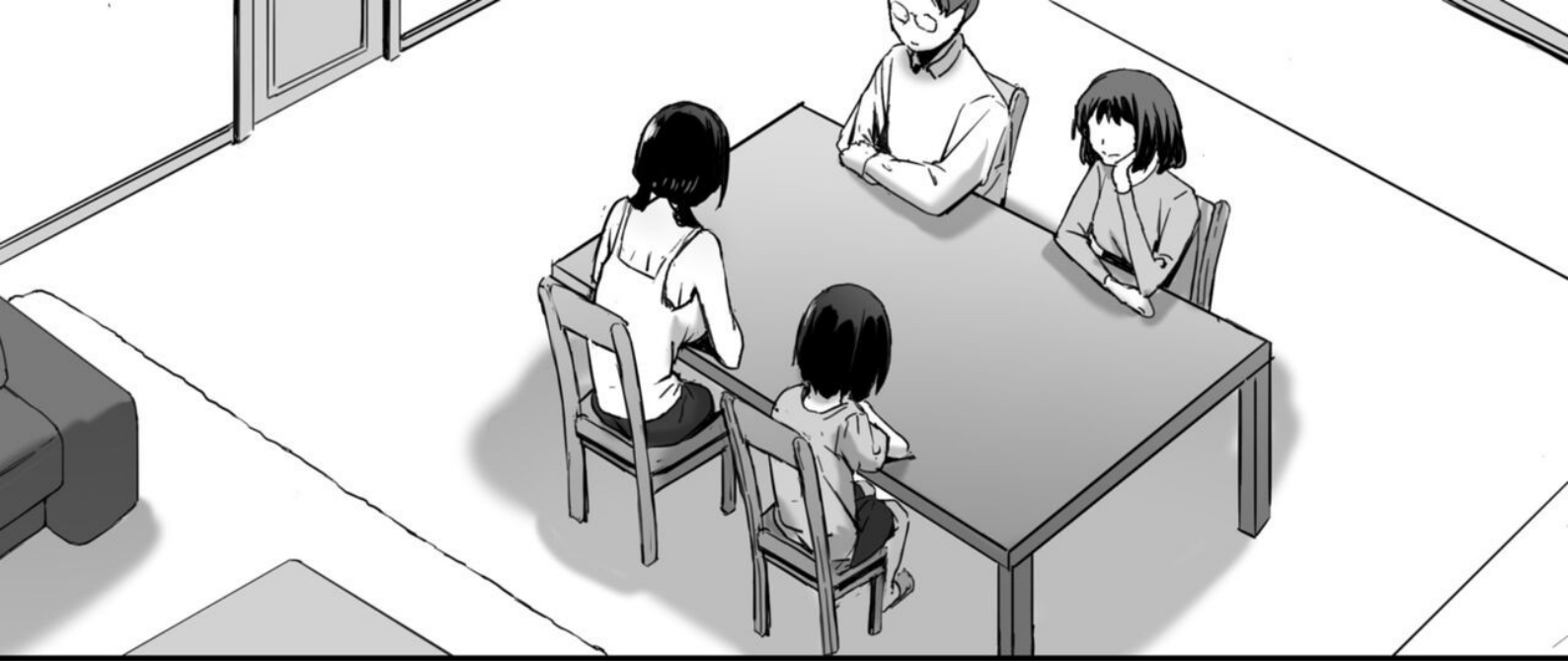














YOU DIE





